

## 会議議事録

会議名	令和7年度 第1回 教育課程編成委員会
開催日時	令和7年8月21日（木曜日）10:30～12:00
場 所	本校3階 図書室
出席者	<p>1)外部委員</p> <p style="padding-left: 40px;">一般社団法人広島県歯科技工士会 会長 白井 政博</p> <p style="padding-left: 40px;">株式会社 愛歯 中四国地区 事業部長 吉富 嘉朗</p> <p>2)学内委員</p> <p style="padding-left: 40px;">学校長 赤川 安正</p> <p style="padding-left: 40px;">教務主任 木村 卓也</p> <p style="padding-left: 40px;">教務副主任 荒谷 康徳</p> <p style="text-align: right;">(参加者合計5名)</p>
<p><b>【議事進行状況及び討議内容】</b></p> <p>1. 10時30分定刻に木村卓也教務主任が開会を告げ、当委員5名全員の出席を確認後、配布資料の確認を行った。</p> <p>2. 引き続き赤川安正校長の挨拶があった。</p> <p>3. 議長の選出は、当委員会実施規程により赤川安正校長が議長となり協議に入った。</p> <p>4. 報告事項</p> <p style="padding-left: 20px;">協議に入る前に、学校側より以下の通り現状報告があった。</p> <p style="padding-left: 40px;">①令和6年度卒業生状況</p> <p style="padding-left: 60px;">*卒業者数</p> <p style="padding-left: 80px;">本校：5名（男性3名、女性2名）</p> <p style="padding-left: 80px;">全国：629名（男性321名、女性317名）</p> <p style="padding-left: 60px;">*国家試験合格率</p> <p style="padding-left: 80px;">本校：100%（5/5名）</p> <p style="padding-left: 80px;">全国：93.3%（684/733名）</p> <p style="padding-left: 60px;">*就職率</p> <p style="padding-left: 80px;">本校：100%（歯科技工所5名）</p> <p style="padding-left: 80px;">全国：（歯科技工所394名、病院、歯科医院71名、進学77名、その他44名、無関係35名）</p> <p style="padding-left: 40px;">②令和7年度入学生状況（入学定員30名）</p> <p style="padding-left: 60px;">*新生22名+留年生3名（男14名、女11名）</p> <p style="padding-left: 60px;">*在籍者数42名（1年25名、2年17名）（男22名、女20名）</p> <p style="padding-left: 80px;">全国：1003名（男性366名 女性637名）</p>	

③教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）と教育訓練支援給付制度の指定校  
（指定期間：令和5年度4月～令和8年度3月）

\*令和7年度受給者

1年生：1名

2年生：4名（内1名は教育訓練給付制度のみ）

④高等教育の修学支援新制度（確認大学）の対象校（令和5年度4月～）

\*授業料・入学金等の減免＋給付型奨学金

（世帯収入に応じた支援で高校生、大学生が対象）

\*今年度受給対象者 1年生：3名、2年生：6名

⑤学生募集活動の実施（改善）

\*高校訪問4月・6月・8月実施、10月予定、1月予定

\*オープンキャンパス（8回）、イブニング説明会（2回）

2025年8月20日現在

月	5	6	7	8-①	8-②	9	11	12	1	個別	合計
令6年度	3	7	5	15	7	5	12	0	7	4	65
令7年度	8	8	12	7	(12)	(2)					51

\*合計は受験対象者でリピーターを除いた人数

\*（ ）は8/20現在のエントリー数

\*個別見学は別途に随時実施しています。

⑥職業実践専門課程の認定について

\*企業連携授業の計画について報告があった。

9月）株愛歯

10月）和田精密歯研株

2月）一般社団法人広島県歯科技工士会

## 5. 議題

### 1) 授業計画について

教務主任木村卓也から、資料の「授業計画（授業科目及び単位の認定）」「授業実施計画表」についての報告があった。

次いで、昨年度の委員会の提言を基に、「実習課題」の見直しを行っているとの報告があった。

尚、授業計画（カリキュラム（単位数）、基本的な各教科の教育目標と教授内容）、授業実施計画表、実習課題一覧表は別紙の通りである。

### 2) 意見交換

説明についての質疑応答、及び改善点等（実習課題の見直し）について討議を行った。

尚、意見交換（討議内容）の詳細は別紙の通りである。

6. 次回の会議日程を、令和8年2月12日（木曜日）10:30～12:00に決めて閉会した。

以上

## 令和7年度 第1回 教育課程編成委員会 討議内容

### 【報告事項について】

(白井委員)

オープンキャンパスへの参加は男性、女性、また、現役と社会人ではどちらが多いですか。

(木村委員)

今のところ女性が多いです。

現役と社会人では現役が圧倒的に多く、高校3年生が一番多いです。

(白井委員)

参加するに至ったきっかけの調査はしていますか。

(木村委員)

アンケートを実施しております。

高校に持参し配布していただいているチラシを見て参加する人が多いです。

あとは保護者のアドバイスです。

歯科医院でも掲示をしていただいておりますので、それを見てという方もおられます。

(白井委員)

福山でも配られていますか。

(木村委員)

福山の高校にも行っています。

(白井委員)

笠岡の歯科技工士学校が無くなったので、福山のラボではスタッフの確保が難しいと。

だから福山でも配ってもらって、歯科技工士が増えてほしいと聞きました。

(赤川議長)

岡山の歯科技工士学校へ入学したとか、高校訪問に来るとか、就職先の情報はありますか？

(白井委員)

学校については特に聞いていません。岡山へ進学したら岡山で就職します。帰ってこないそうです。

(赤川議長)

そうですか。

(荒谷委員)

福山の高校の進路指導の話では「家から出たくない」という生徒が増えている。

自宅から通える福山か岡山方面、西側は尾道あたりまでのエリアで進路先を探すそうです。

## 議題

(荒谷委員)

では、議題へ移りたいと思います。

(赤川議長)

授業計画を、事務局から説明をお願いします。

(木村委員)

実習課題について、1年生の後期に変更があります。有床義歯技工学実習で屈曲バーをしていましたが、リングルバーは1年生のパーシャルデンチャーの課題で製作しますので、省きました。パラタルバーの屈曲は、2年生のパーシャルデンチャーの課題で製作しますので、省きました。

次に、歯冠修復技工学実習の部分被覆冠ですが、1級、2級、3クォーターとMODの製作をしていましたが、今年度から1級と3クォーターを省きました。これは臨床でのニーズが低下していることからです。ですから2級とMODだけを実施することにしました。

昨年度の教育課程編成委員会で提言がありました「現場を見学して、モチベーションを上げ、職業意識を高めたらどうですか？」とのことでしたので、入学して3週間経った4月26日に歯科医院の見学実習を実施しました。広島県、山口県の歯科医院へ、1グループを2~4名(2年生も一緒に)に振り分けて見学させました。そのときに自身の印象を取ってもらい、石膏を流す体験も実施しました。歯科技工所の見学も、昨年度は(株)愛歯様でお世話になりましたが、今年度も実施予定です。1年生の変更は以上です。

続きまして2年生です。前期の課題についてです。レジン前装冠Iの課題で小臼歯のレジン前装冠の全てを鑄造までしていましたが、ろう型採得の窓あけまでにしました。

2年生の後期はCADによるパーシャルデンチャーの設計では、(株)GCから講師に来ていただいてCADでの設計実演と体験を実施します。

下顎の部分床義歯は復習として実施していましたが、省きました。一部被覆冠も実施しないこととしました。

企業連携授業では、和田精密歯研(株)の授業で歯型彫刻も指導していただく計画になっております。

本年度の実習課題としてはこういう計画で進めていくことになっております。

## 【課題の見直しについて】

(木村委員)

課題と時間数を減らすことにご意見をいただければと思います。1年生です。

有床義歯技工学実習が、規定では270時間ですが実際には314時間を割いています。

歯冠修復技工学実習も、規定では225時間ですが実際には246時間実施しています。

この時間数と課題を減らしたいという考えです。先ほどの一部被覆冠を減らしたり、屈曲バーをやめたりと課題を減らしましたが、時間数は確保しています。というのが、最近の学生は、月曜から金曜日まで朝の9時から夕方のホームルームも含めて5時まで、きっちりと授業が入っています。

一息つく間もなく課題があり、それに対してストレスを感じているという学生の声を聞きます。

中には毎日9時に登校できない学生もいます。私がここに来た頃は、夏休み、冬休み、試験前の補習にかかる学生はほとんどいなかったのですが、最近は補習の人数が多くなり、補習が当たり前になっています。授業の時間数と課題を減らすことでカバーができるのではないかとということで、検討しているところです。この件に対して、ご意見をお願いいたします。

(白井委員)

アナログとデジタルの両方をきっちり教えるということになると、圧倒的に授業時間は足りませんよね。

(木村委員)

2年間ではきついのは正直なところですね。

(赤川議長)

時間が足りないのはわかっていますが、今は多様な学生がいるので、そこを考えると窮屈になると。

(木村委員)

欠席した課題をフォローしなければならないのですが、その時間が無かったりします。どうにか追いつかせようと思って、放課後に居残りをさせて指導しますが、追いついたら頑張ってくれるかなと思ったら、追いついたらまたちょっと休んだりします。

(吉富委員)

その流れで最終的に退学という可能性はありますか？

(木村委員)

それが退学や留年に繋がります。そうでなくても成績が上がらなく、理想的な技術と知識が身に付かないことになります。

(吉富委員)

これ時間数の減少、20時間から40時間くらいですね。この減少が国家試験の結果に対して影響するとはありませんか？

(木村委員)

1年生の基礎を身に付ける課題ばかりです。なので、さほど心配はしていません。技術トレーニングになる課題を減少し過ぎると、技術的に2年生に進級してからが大変になります。2年生担任はそこが心配です。

(荒谷委員)

1年生で留年になると、退学の方向性が高くなるので、進級させることは大切です。そうすると2年生になってから講義と実習についてこれなくなります。私はある程度できる子を上げてほしいと1年生の担任に言っています。そうでないと2年生で留年か退学になります。

(赤川議長)

とにかく窮屈でストレスを感じながらも、ものづくりの仕事なので、社会の現場に近い状態を学校でもやらないといけないというところもあります。それをやっていることによって社会に出てから活躍できるので、緩めすぎもどうかと、窮屈すぎもどうかと思います。窮屈すぎることはありませんが、そういう風を感じる学生が増えているというのが現実です。

歯科技工は嫌ではないが、窮屈でつまらないといって学校を辞めていくかもしれないし、一方で教職員の皆さんに言っているのは、入れた以上は退学をさせないことです。。教職員はみんなすごいケアをしています。だから授業時間を議論しているということなのです。

(吉富委員)

私はいいと思います。純粋に2年間で歯科技工の資格をいかに取らせるかがキーだと思っています。

私も考えは同じで、退学を避けたいというのは絶対です。就職先で歯科技工士さんたちの年齢も上がってきているので、その分経験値も上がっています。教えられる幅というの、やっぱり時間の経過とともに増していると思います。ですから弊社としても、どんな人材が入社しても歯科技工士として続けてもらいたいという思いがあります。万が一辞めたとしても、歯科技工士は辞めてほしくないという思いがやっぱり強いので、まず、学生の退学率を減少させること、人数を増やすための取り組みとしては絶対いいかな、と思っています。

資格を取っていただければ、あとは企業側が頑張る部分ではあります。1年目で作ったものをノーチェックで納品する歯科技工所はありません。先輩のチェックが必ず入るので、その辺りは品質としても担保できていると思います。納品に関しても何が何でも先輩が守りますので、企業側も覚悟して一人前の歯科技工士を育てます。

(赤川議長)

だけど、能力として何が最低限必要か。通常、普通の会社でいうと、コミュニケーション能力が絶対。

しかし企業側はそうでもない部分があるような子が入ってくるので、それを2年間でコミュニケーションのスキルを上げることは難しい。少なくとも挨拶ができるようには指導しているつもりです。この2年間で指導してほしいことがあれば言ってください。それに向かって内容を検討いたします。

(吉富委員)

挨拶は1年目の社員に指導しています。

なので、そういったことが必要な学生は、コミュニケーションを学ぶことができる会社に行けばいいと思います。例えば教育研修があるとかです。社会人になって学んでいけばいいと思います。そうでない学生は純粋に技術を駆使して納品物を作る会社に行ったらいいと思いますので、その企業側の体制を見て、選べばいいと思います。入社試験で面接もありますから、挨拶は大事だと思います。純粋に歯に興味があって、好奇心がある方がいいです。好奇心がある方がやっぱり基本で、好きであってほしいです。

歯科医院の見学は一年生の時から将来が広がるという部分に関して、私はかなりいいと思いました。

(木村委員)

これが新生と二年生をグループにして行きました。

(赤川議長)

入学してすぐの時に、自分の仕事がどういうものなのかというのを見るために。同門の先生を選んで、かつ住んでいるところに一番近いところを選んで行かせました。これ何に使ったか、これはこういう時に使っていて、実際に見たら「あ、そうかと」と思う。その一個だけ学んでこいと。ついでに同門の先生に、「印象を取ってほしい、見学の学生に石膏を流させてほしい、研究用模型を作らせてほしい」と頼みました。それで解剖の講義とか概論の講義をしました。感想を読んだ限りは、やってよかったという気がします。

#### 【部分被覆冠の課題について】

(赤川議長)

4分の3を省いたのは、ほとんどオーダーが無いのではと思ったからです。2級は多分あると思うけど、1級は臨床ではコンジットレジン充填で済みます。そんな課題はやらなくていい、と教員に言いました。MODはするけど、実際、臨床ではほとんどないのでは。

(白井委員)

MODはあります。やっぱりCADのインレーでMODは割れやすいです。クラウンはデジタルでできますが、デジタルのインレーは完成度が低すぎて、ワックスアップになります。

(赤川議長)

そういうことですか。やっぱりメタルは丈夫ですよ。

#### 【人工歯削合について】

(木村委員)

全部床義歯の選択削合の指導ですが、入学して5月頃に上下の全部床義歯の製作を始めて、夏休み前に完成させます。その中で選択削合がなかなか理解してもらえない。作品もこちらの思い描いているレベルに達しません。本来なら排列しながら削合を行いますが、排列のときはもう排列でいっぱい、そこに削合の指導をすると、パニックになります。だから排列のときに削合はしていません。重合してから削合を教えています。それでもなかなか上手くいかなくて、思い描いているような作品にならないです。今年の1年生の作品を見ていただいて、ご意見をいただければと思います。

(白井委員)

綺麗に排列していますね。

(木村委員)

削合はパターンが多すぎて、なかなか理解が難しい。

(白井委員)

でも排列をしていたら、強いです。他の技術にも繋がるので。

(赤川議長)

実際のこの作品の削合をする前に、前年度の2年生が排列した作品を残しておいて、それで削合の体験をさせてから、自身の作品の削合に入ったらという案です。事前に経験することが一つの手だと思います。

(白井委員)

実習課題では削合は必要ないのでは?

(木村委員)

国家試験のことを考えるとやはり経験は必要だと思います。例えば単純に BULL の法則は理解してもらわなければいけないので。

(吉富委員)

国家試験に出ますか?

(木村委員)

出ます。フルバランスなど、一旦忘れてしまったとしても、国家試験とか定期試験の時に、ルールがあったな、というのは覚えておいてもらいたいです。

(白井委員)

実際、臨床のデンチャーでそんなに削合はしていません。特別なときしかしません。排列して、歪んだところを少し削るくらいです。

(吉富委員)

うちは結構しています。

(白井委員)

ポコンと当たってポコンと外れるようなところは当然で。とりあえず排列に慣れるのが先かもしれない。下顎の前歯の角度が立ち上がり過ぎですね。ちょっと引っ込んだような感じに見えます。

(木村委員)

おそらく模型、人工歯、咬合床の関係で、どうしても下顎前歯が模型に当たって立ち上がった角度になります。

(白井委員)

これは咬合堤が低いですね。もう少し高くすればいい角度に出来そうですね。

排列はとても大切です。排列がしっかりできれば削合もよくなる。

(木村委員)

ありがとうございます。

【サバイヤーを使用するケースについて】

(木村委員)

サバイヤーの使用頻度とか使用方法についてご意見をいただきたい。例えばトレーの設計時もサバイヤー使って、きっちりブロックアウトエリアをマーキングして製作しているか、どうかをお聞きしたい。

(吉富委員)

トレーや咬合床の時は使っていません。

(白井委員)

使わないです。目視で埋めています。鉛筆ですと咬合床に写るので。トレーの時は目視でブロックアウトしています。初心者は引いてもいいかもしれないですね。臨床模型はアンダーカットが大きくて、外す時に壊れたりします。だからブロックアウトは確かに大事です。だから咬合床とかトレーの時もサバイヤーを使っていいのではないですか。

【講義と実習の進め方について】

(木村委員)

職員会議で提案をしたのですが、実習課題を先行して行い、後に講義に講義をする案があります。

(赤川議長)

1年生に講義をしていると、理解してもらえないことが多い。こういきなり、削合の話をして理解することが困難だと感じています。物作りが好きだったら、いきなり理屈なしで実習というか。削る練習でもいい。練習というかそういう実習をしておいて、その後に理論の勉強をする。そうすると講義の理解度が高くなるのではと思います。だから提案をしました。

(吉富委員)

私の小学生2年生の息子がサッカーを習っているんですけど、最初にコーチが話をすると、子どもは聞かずに、遊び始めます。だから最低限の説明をして、やってみる。それから上手にするためにはの指導をしてから、もう一度チャレンジをしています。今聞いていて同じだなと思いました。確かに難しい部分から入ると、そこで壁ができてしまって、実習にも抵抗が出る方もいると思うので、まずやってみるのが、インパクトがあってもいいかもしれません。私も学生時代にそういう授業があればよかったです。

(赤川議長)

特に多様な学生がいますので、余計難しい。ということですので、全会一致賛成いただいたということでありがとうございます。

(荒谷委員)

令和7年第1回教育課程編成委員会を閉会いたします。皆様お忙しい中ありがとうございました。